

## 5. 材 料

建築は町の材料を生かして  
作らなければならぬ。

- 材料はそこの生活の証し

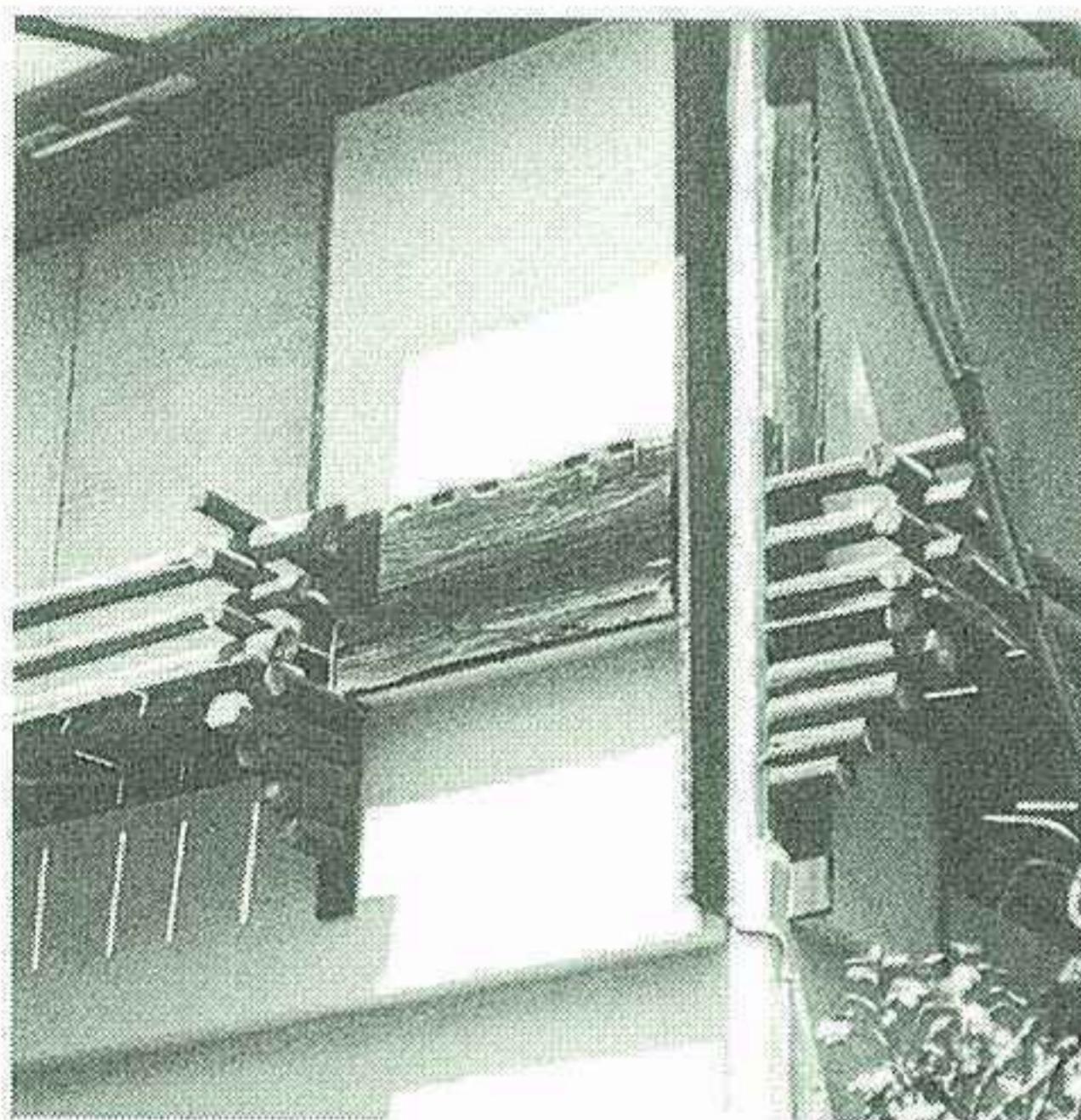
## キーワード

## 前提条件

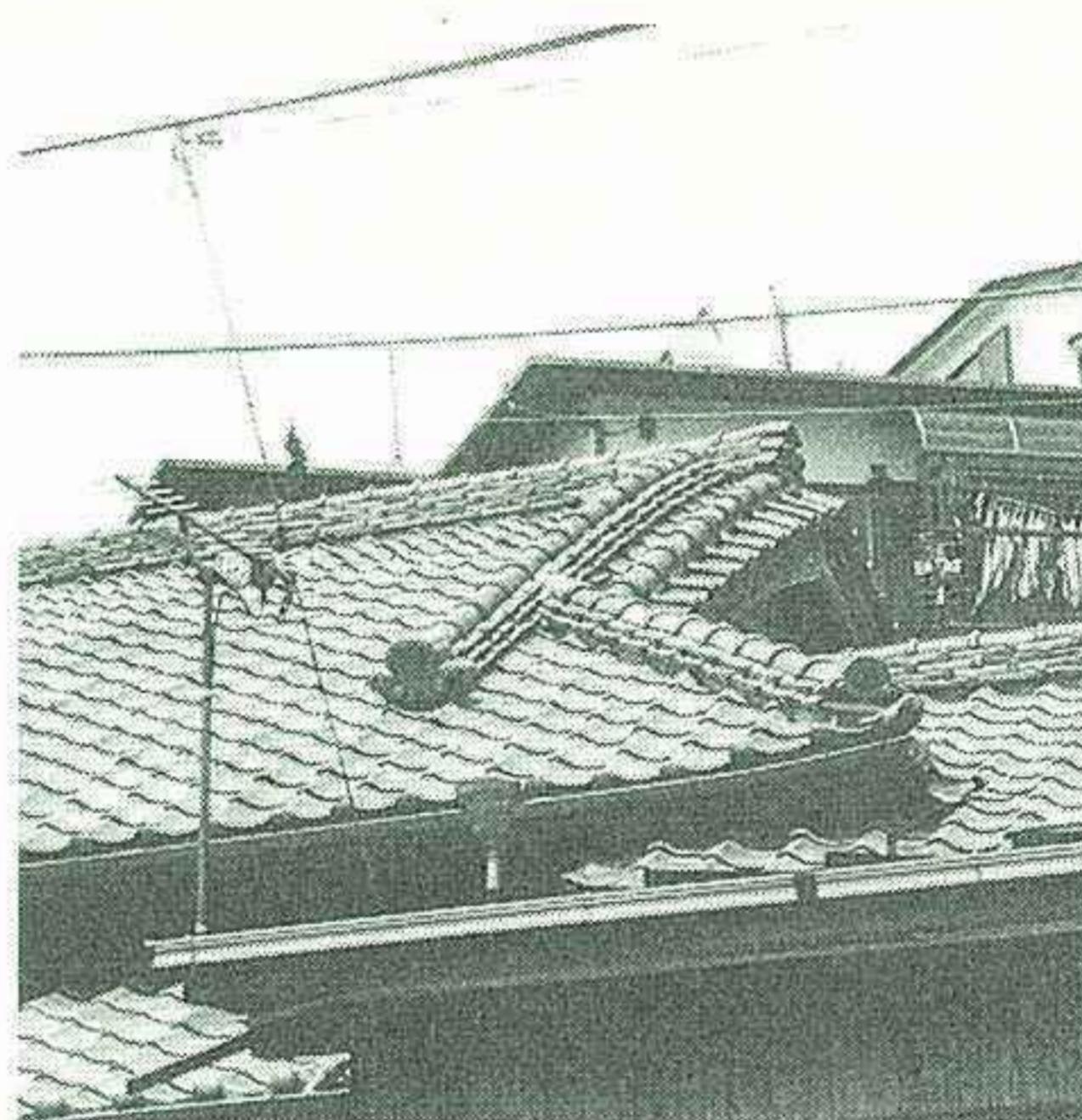
### ○自然な材料

工業生産で造られた建築材料の質は根本的に風土にかかる質になじまない。それらの使用は、均一で日本中どこでも何ら特色のない建物、文化を造ってしまう危険がある。また年月を経て風化していかない限り、まわりの自然に調和するわけもない。

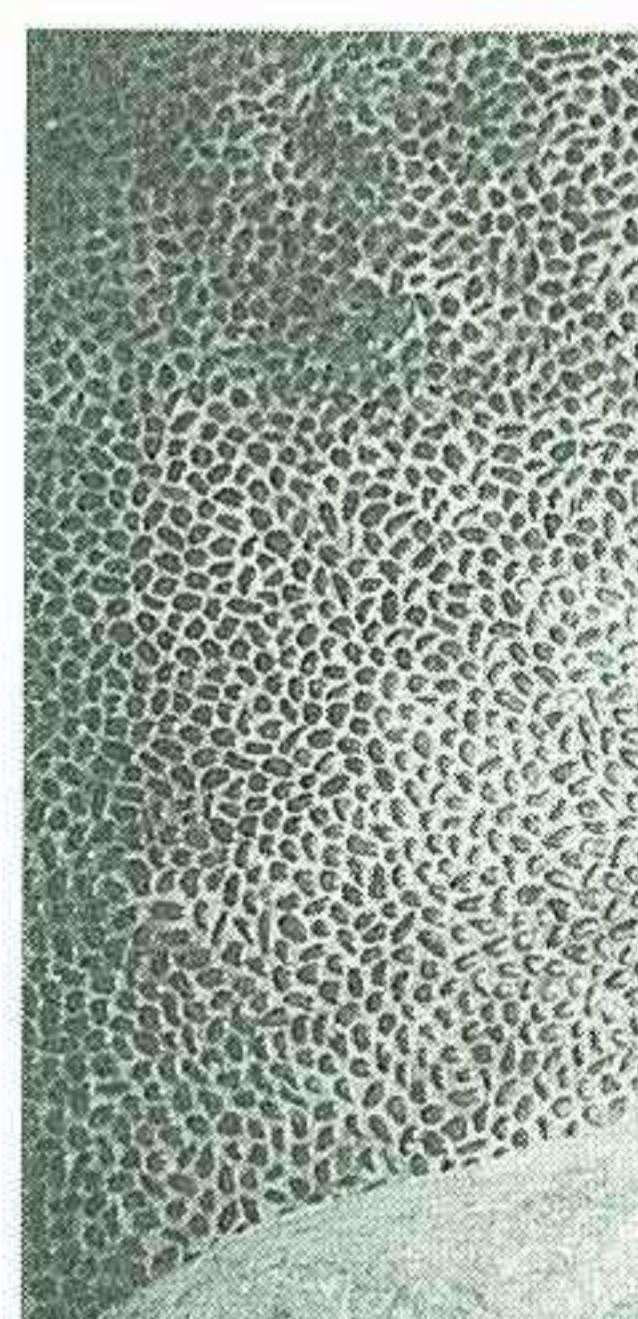
●漆喰



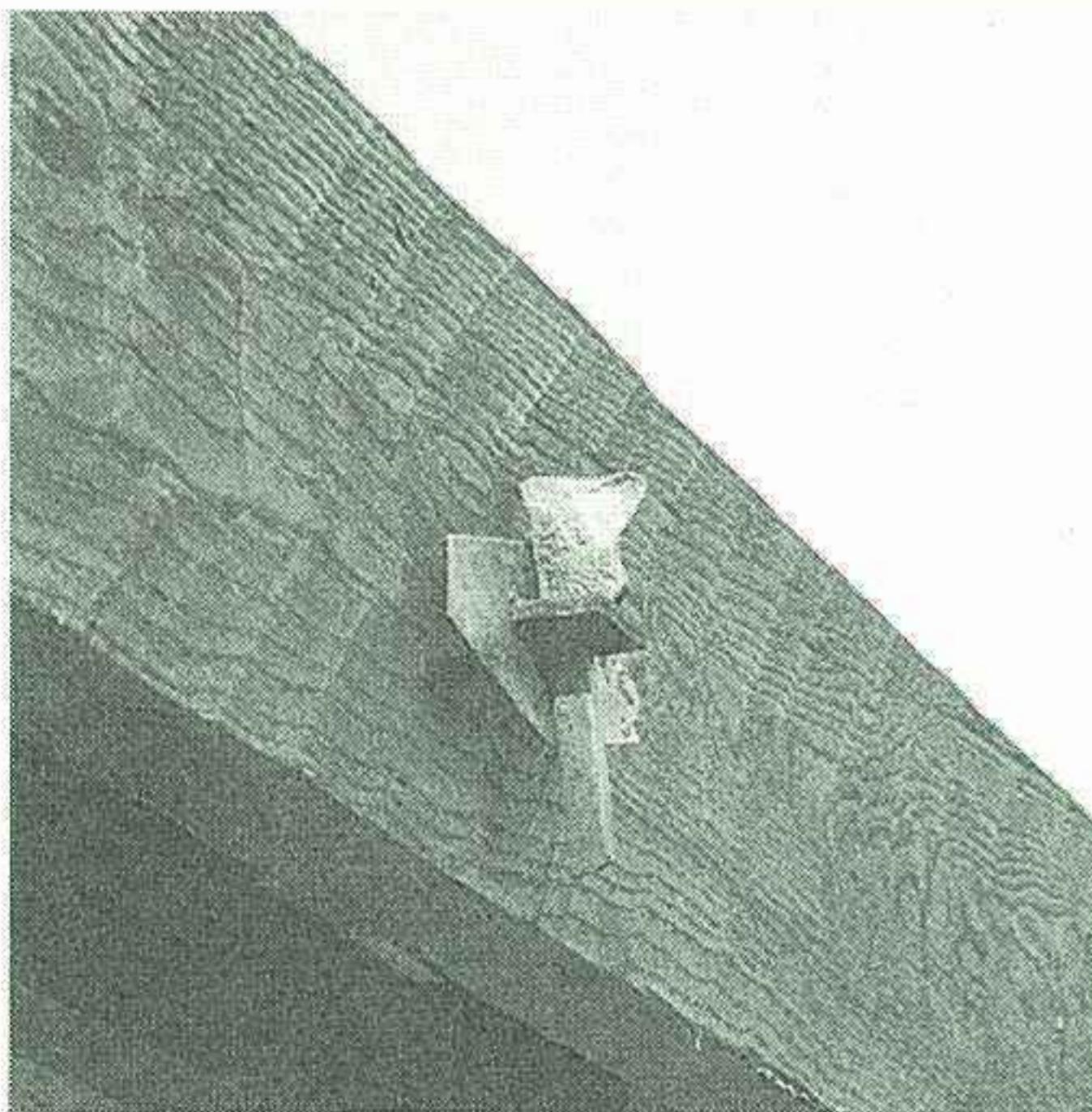
●瓦



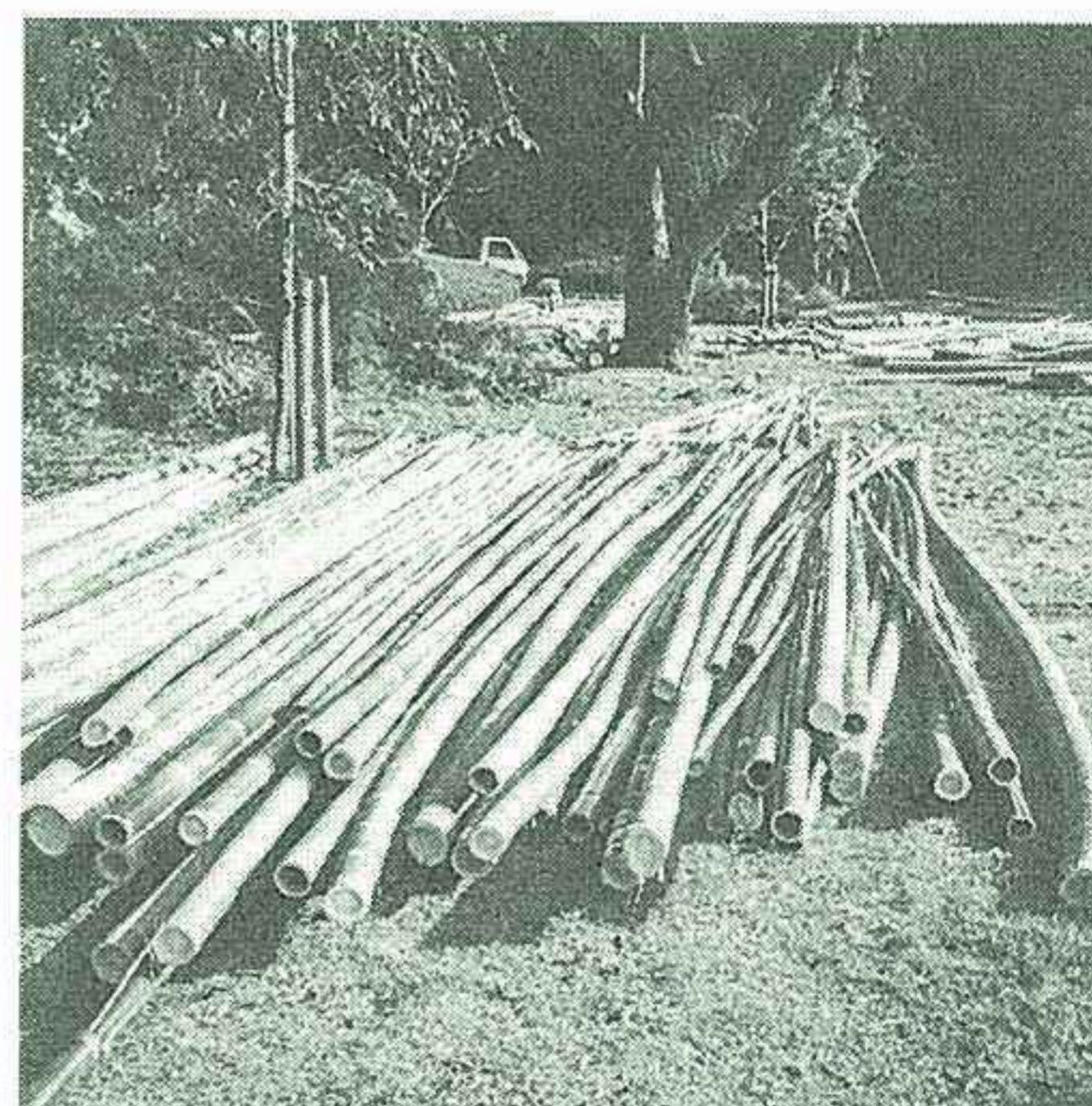
●小石



●鍛鉄



●竹



●石



## 解 決 法

できる限り、自然な土に還元される材料を使用すること。一次材、量材としては難しいが表面や仕上げ材といった二次材としては木、竹、わら、プラスター、紙、帆布、レンガ、合板、瓦、石などを場所に合わせて使用すること。特に建物の一層部分、屋根、外構、手や足で触れる部分には、やわらかい材料を使用すること。また手作業による組み立て材を使用すること。地場材料である小松石（クズ石を含む）は積極的に利用すると良い。

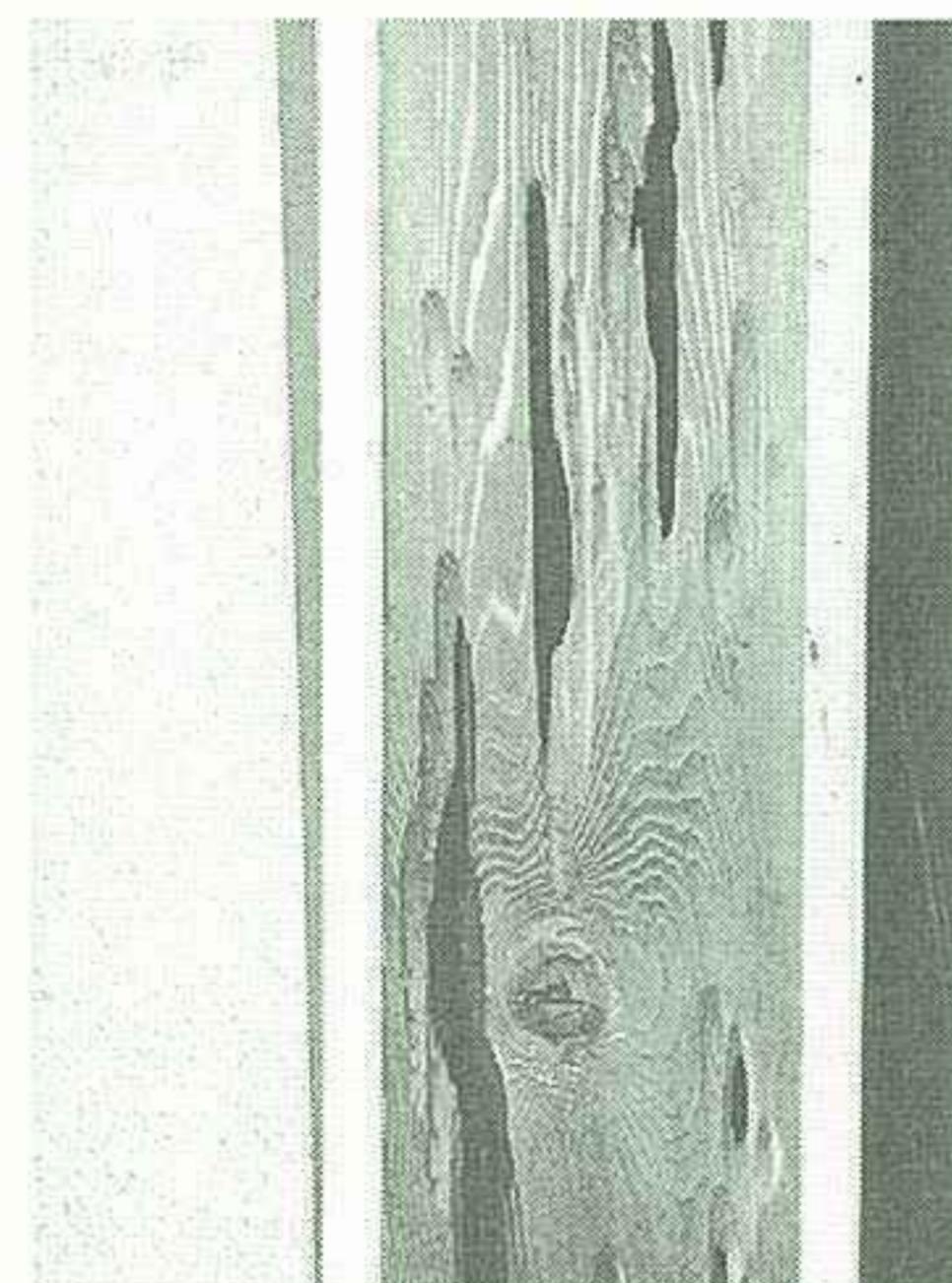
## 課 題

- ・小松石の使用例の手引き
- ・地元石材業の協力

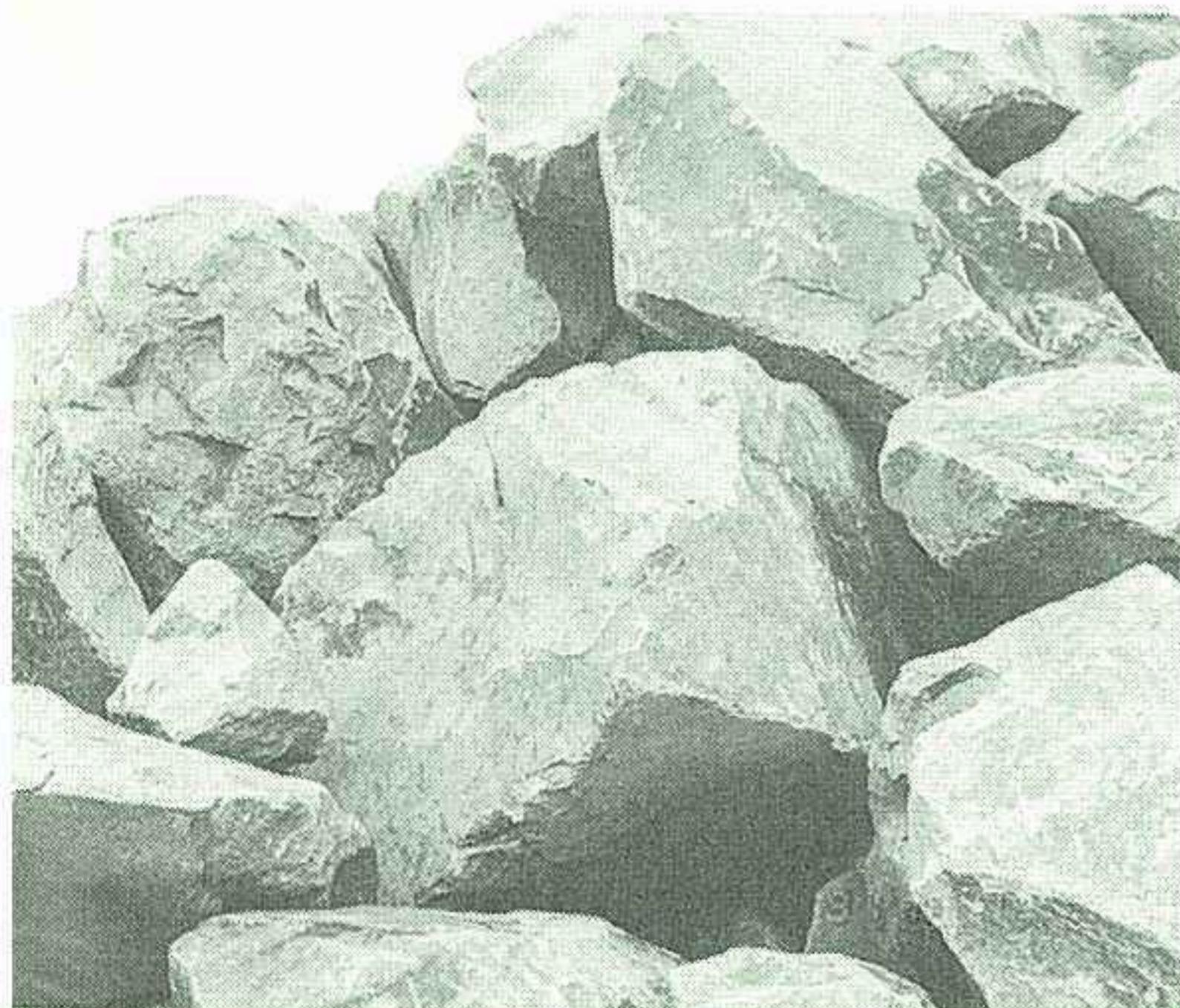
●舟材



●木



●土



## キーワード

## 前提条件

真鶴町では古来より、小松石の特産地として有名であり、その石は各地で使用されている。

### ○地の生む材料

#### ●地の生む材料で作られた石垣は更に地の植生を育む



高い  
↓  
安い

#### ●地の生む材料の種類

1. 大きくりっぱな石（小松石）
2. 大きいが、あまり認知されていない石（ボサ石）
3. りっぱな材料を取った後の石（木端石）

#### ●美しく使用された材料



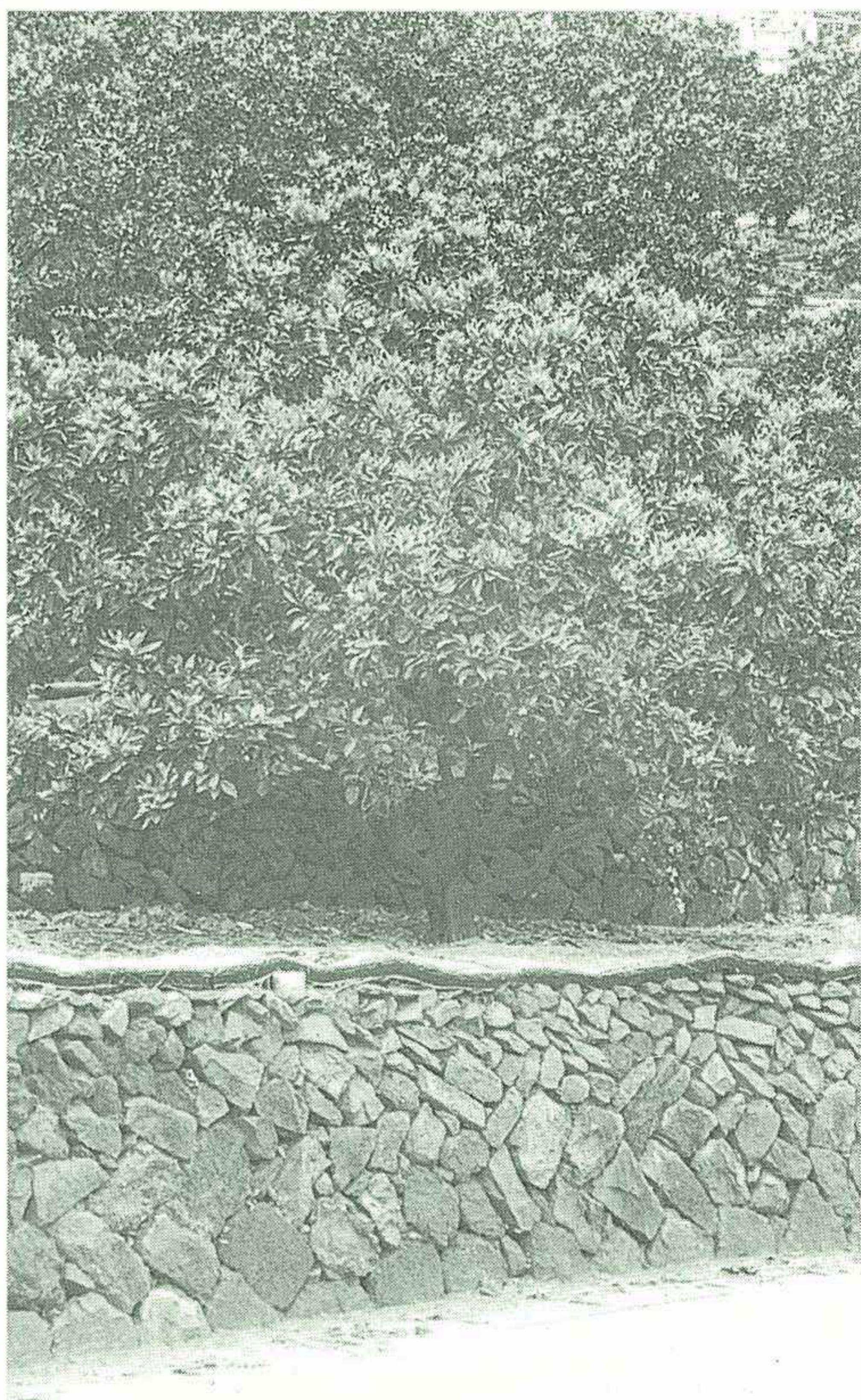
## 解 決 法

小松石を積極的に利用し、町を小松石利用の展示の場とすること。  
石工、石材加工業がこれから新しい地場産業の型となる様なシステムを考えること。

## 課 題

- ・石に関する情報の整理
- ・入手ルートのシステム化

### ●大地を修復するように使用された材料



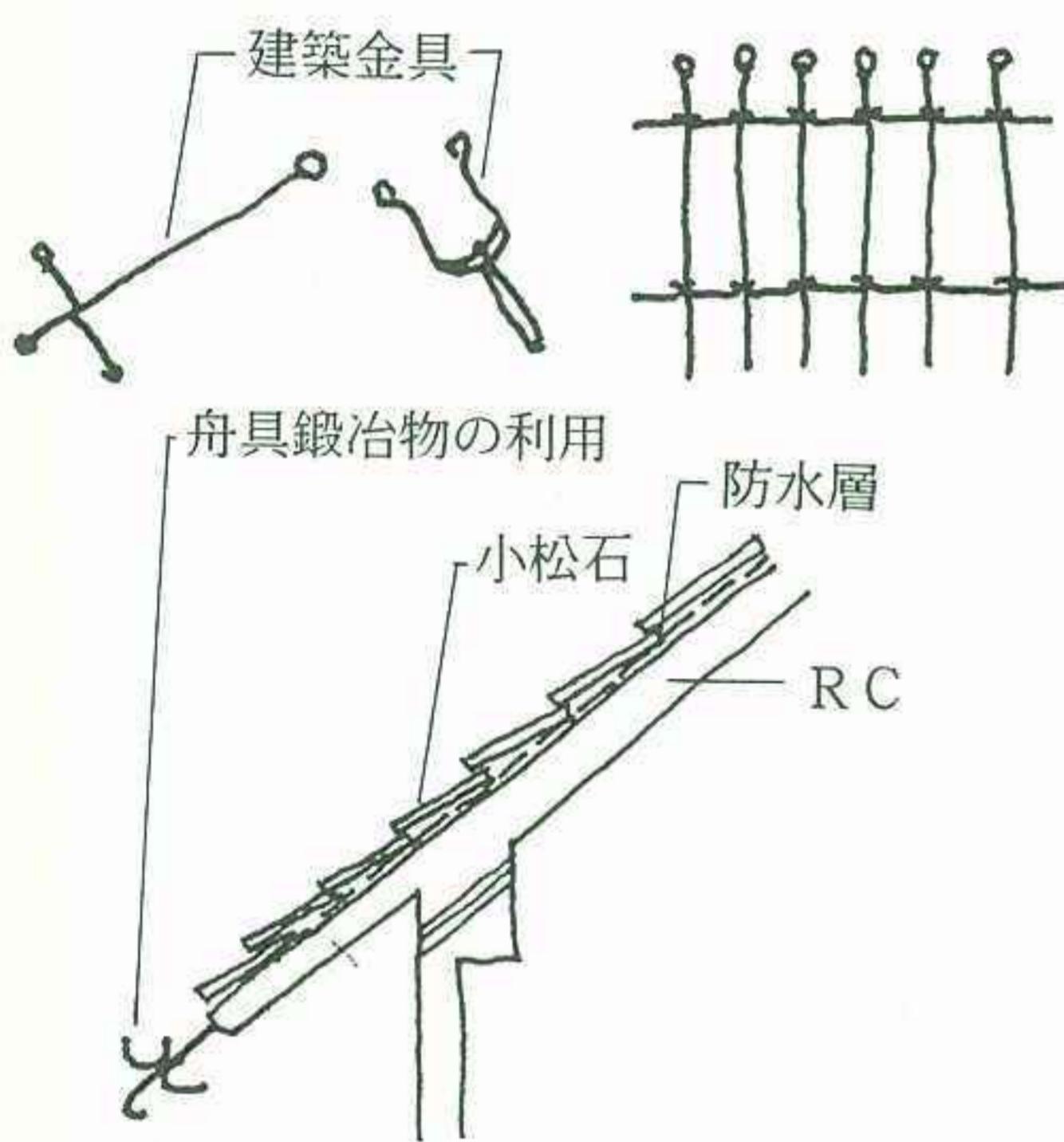
## キーワード

## 前提条件

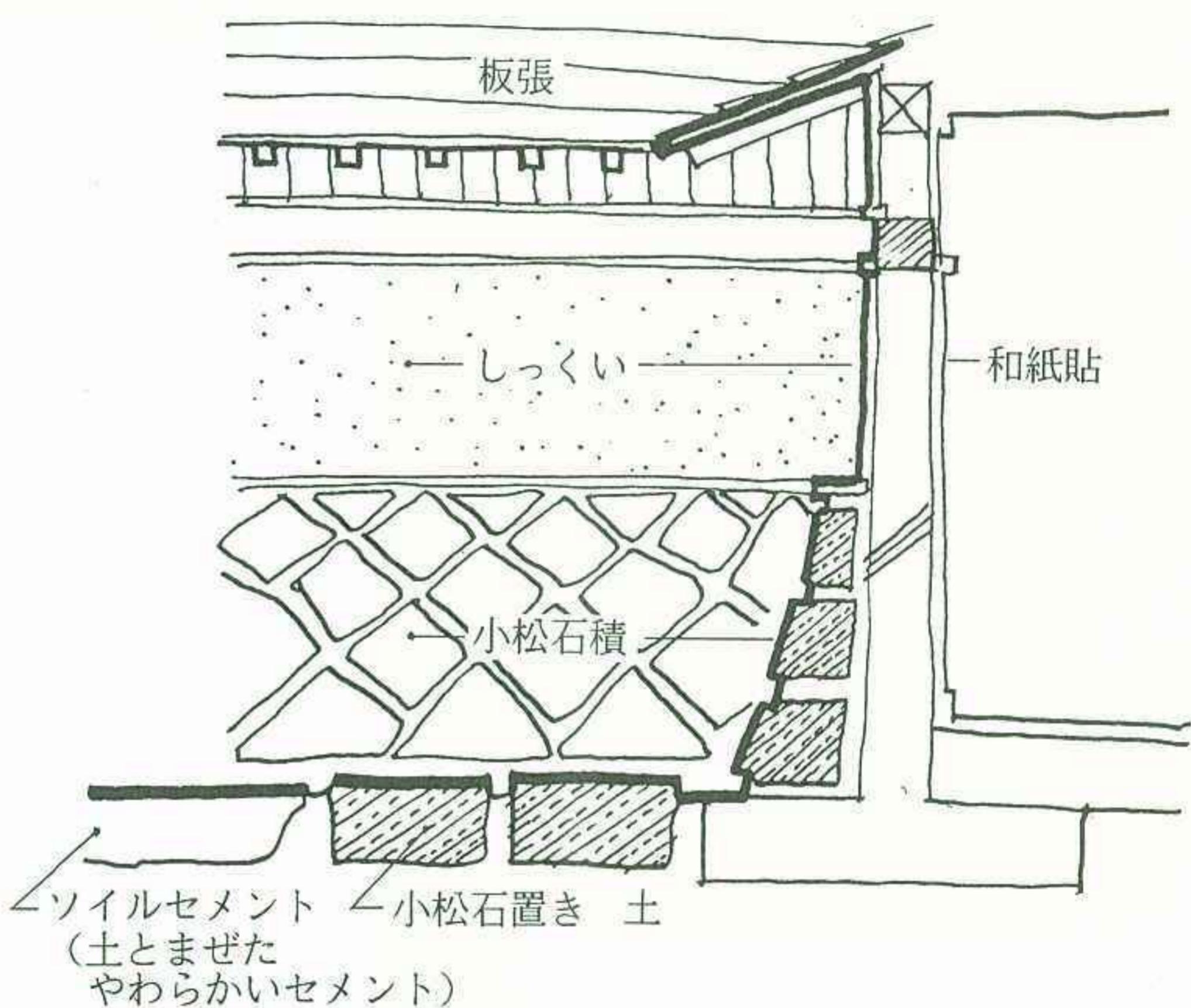
自然な材料、地の生む材料は適正に使われてこそ生きている材料になる。

# ○生きている材料

## ●鍛鉄の使用法

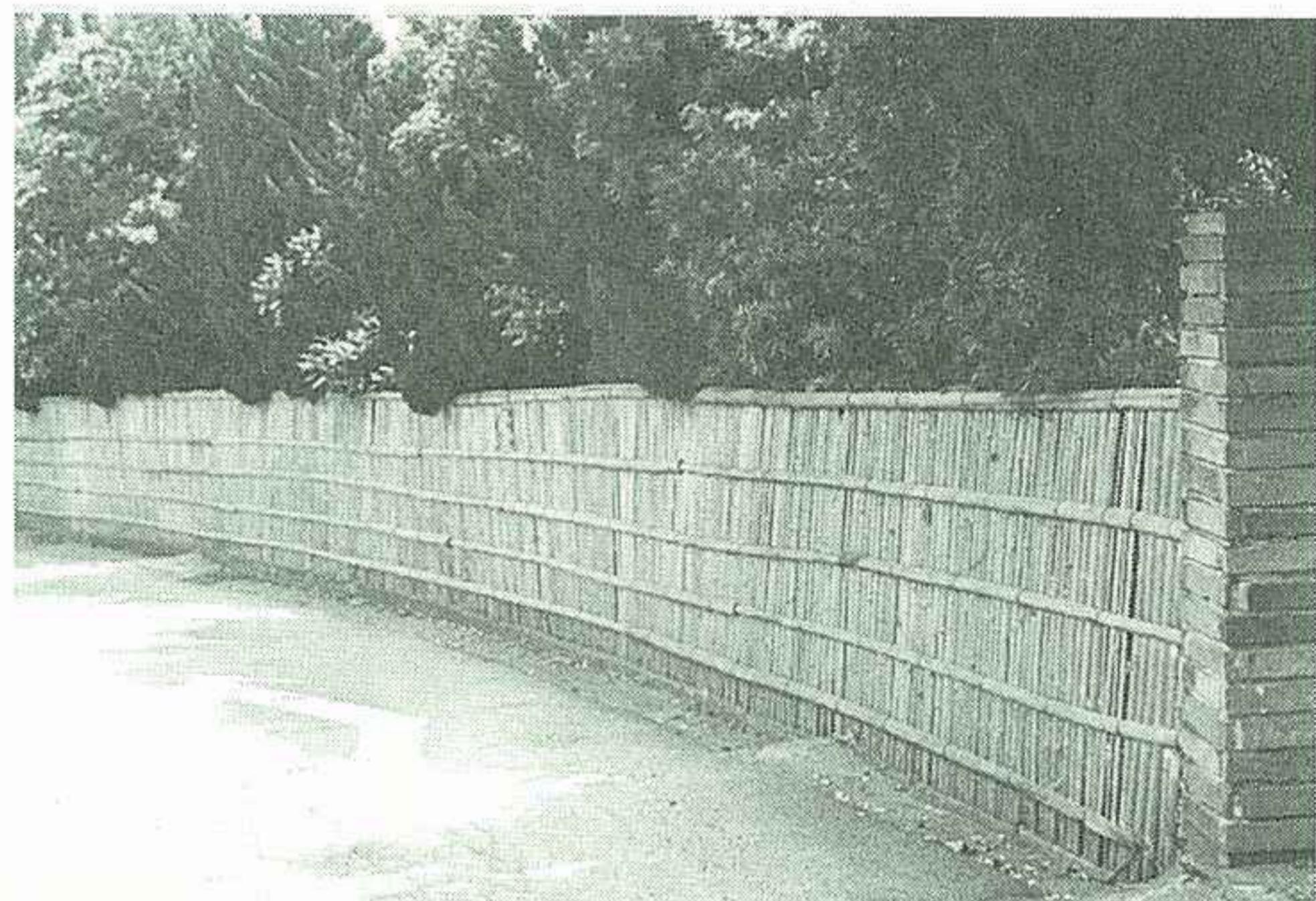
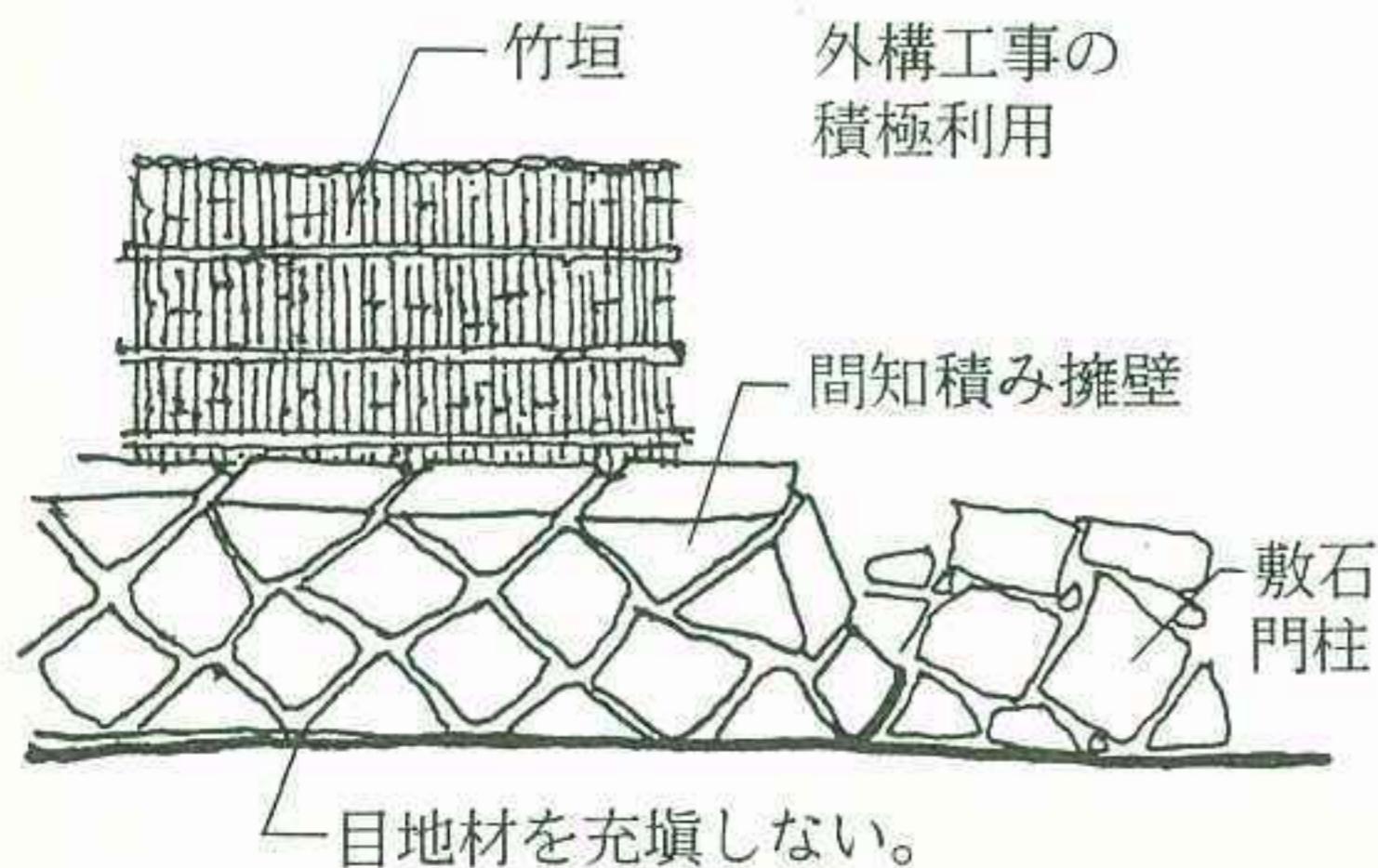


## ●材料のコンビネーション



## ●植物との組み合わせ

## ●外構工事への積極利用

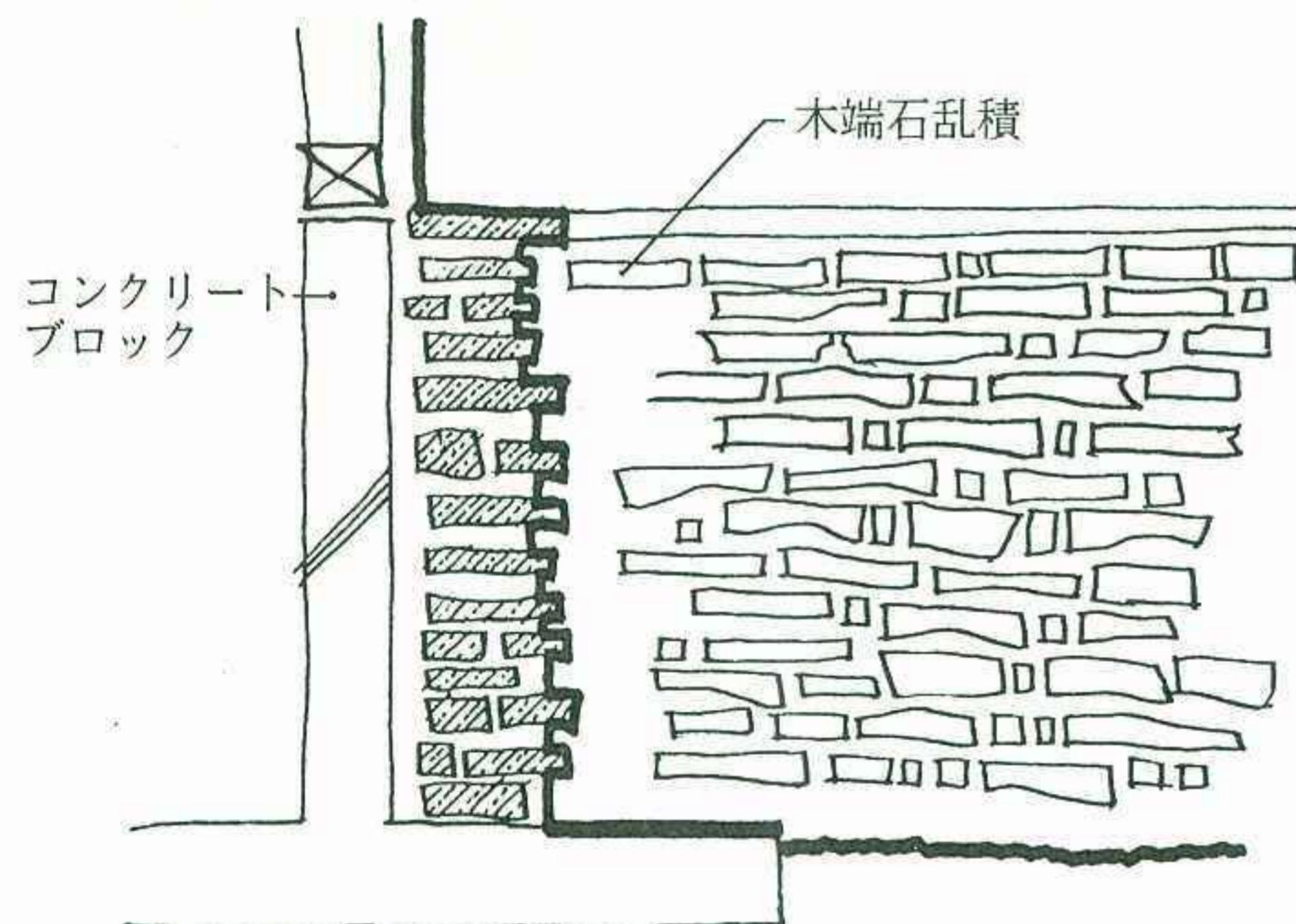


## 解 決 法

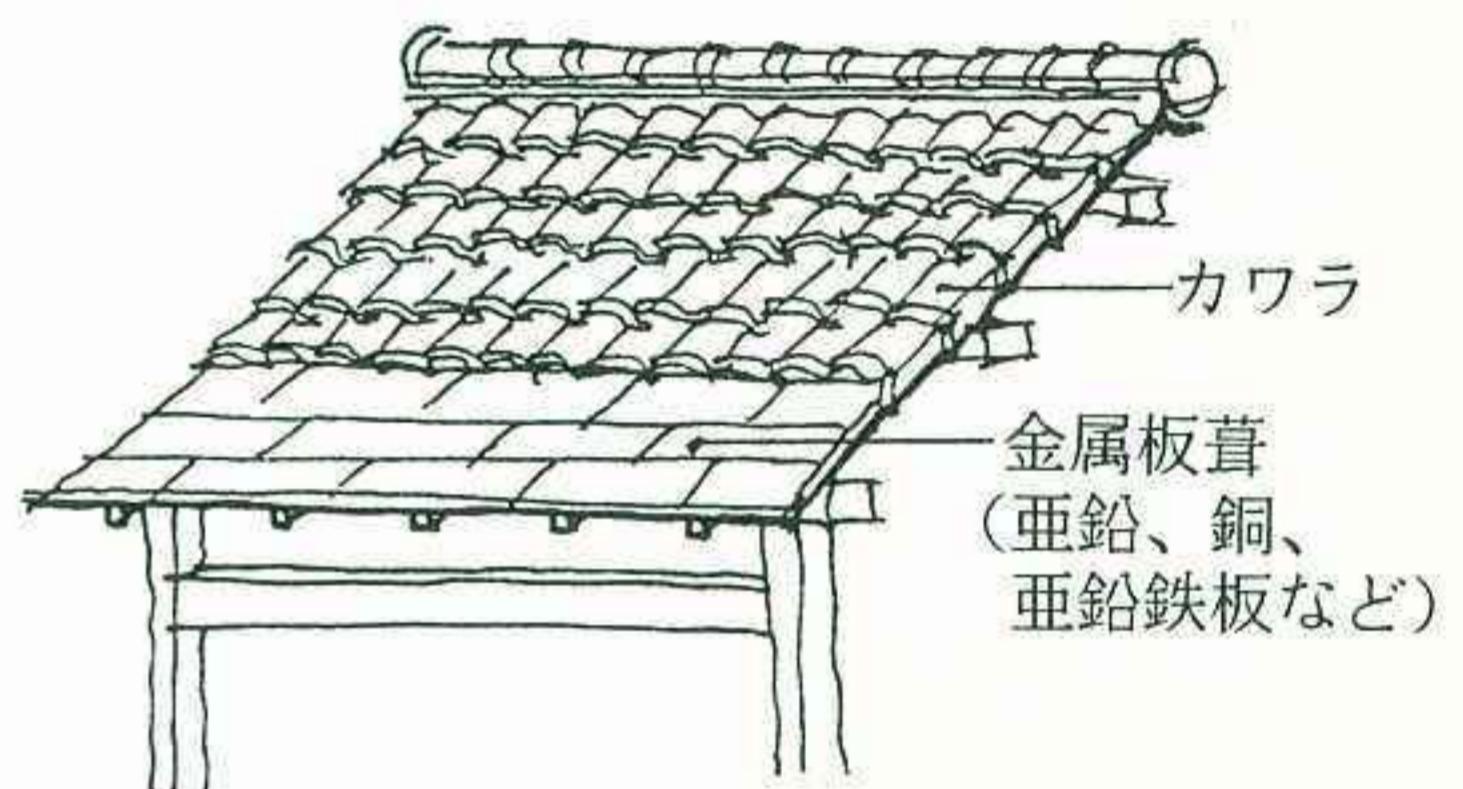
自然な材料、地の生む材料をきめこまかく、職方の手による手造りとなるように使用すること。  
決して工場で組立て、いきなり現地に搬入する様な工法を取らないこと。

## 課 題

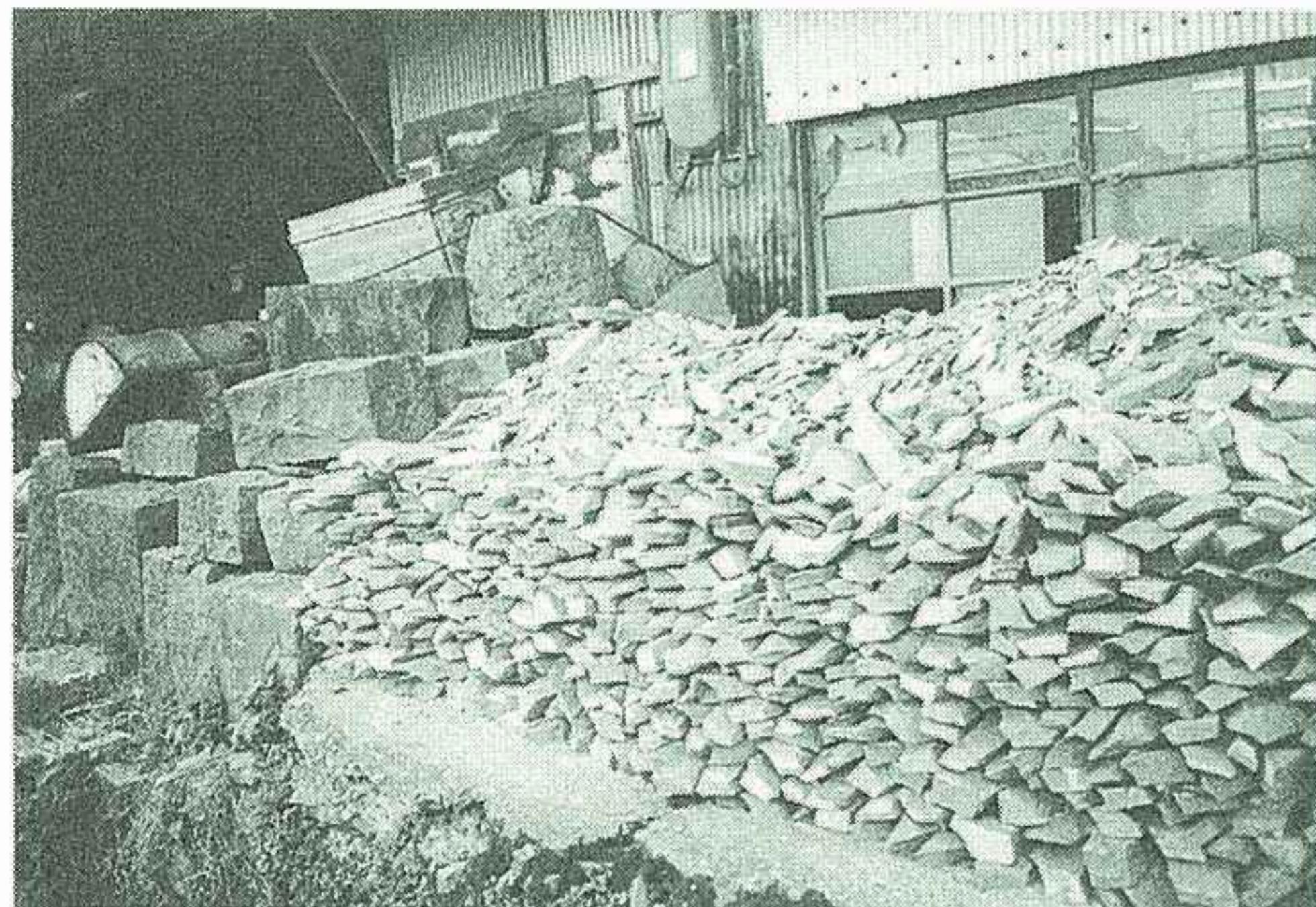
### ●余剰材料の使い方



### ●その他



### ●余剰材料



### ●良い使い方

